

# 令和5年度 園評価書

園番号 49

園名 西久保こども園

## I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かなたくましい子	「明日もやりたいね」がいっぱい	色々なことに興味をもち、自分から積極的にかわり夢中になって遊んでいる	子どもの興味関心に合わせた環境作りをすることで、子ども達が好きな玩具や素材を手に取り夢中になって遊ぶ姿が見られている。戸外では製作コーナーや運動できる可動遊具を設置しておくことで、自然物に触れたり身体を動かして遊ぶことを繰り返し楽しむ姿が見られた。	A	A	・夢中になって遊ぶ様子が見られた。節分に向けての取り組みも面白いと思った。園全体で取り組んでいることが見て感じ取れた。異年齢での関わりも見られてほほえましく思う	・引き続き子どもの遊びから興味、関心を探り、何が育っているか、何を楽しんでいるか、課題は何かを把握し、明日の教育、保育に具体的な願いを持つように意識していく ・子どもの発達を押さえながら表れを見取り、その子に合った遊びのヒントを伝えたりしめたりしていき ・遊びが充実するための援助や環境構成を短いスタンスで行っていく ・引き続き保育者が、子どもの可愛らしい表れや心打たれた場面をニヤリハットで伝え合っていく
		友だちの良さを認めながら、一緒に考えたり試したりして遊びを楽しんでいる	各学年で定期的に環境が見直されており、その時の子どもの興味に合わせた、環境構成がされている。保育者は子ども達が工夫して遊ぶよう素材を用意したり、自分達で考えて行動できるように環境を可視化したり見守ったりしているが、子ども達だけで遊びを深めていく姿は少ない。	B	B		
		友だちの思いに気付き、自分の思いや感じたことを言葉や態度で表現できる	話し合いをしたり、保育者に思いを受け止められたりしながら自分と友だちの思いの違いに気付く姿は増えてきている。しかし感じた事を言葉にできず、泣いて表す姿も多いため、保育者が伝え方のモデルを見せたり、一緒に伝えたりしながら表現につなげている。	B	A		

## II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	園児の発達や個々の生活背景を考慮し、一人一人の状況に応じた柔軟で応答的な援助や環境を整えている	一人一人子どもの成長や個性、日々の姿に合わせた援助や関わりをし、遊びや生活の環境を整えている。会議で意見を出し合い共有し、保育者間で同じ配慮ができるようにしている。	A	A	・取り組んだことの報告を聞く限りでは、昨年度より良い方向に進んでいると思う	・子ども一人ひとりの成長を職員間で共有し、連携をとる ・昼打ち合わせの情報をもとにしっかりと書き、同じクラス担任に伝達する。フリー保育教諭は職員室にある日誌を確認する
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズムを大切にしながら安定した気持ちで過ごせるよう工夫している	給食開始時間や午睡時間を個々の生活リズムや体調に合わせて考えながら対応している。また、その日の子どもの様子を職員間で共有し、連携していくことで安定して過ごせるようにしている。	A	A	・自己評価はもっと高くてもいいのではないかと思う ・改善策はたくさんありすぎるとやり切れないと思う。今やっていることを見直し、やらなければならないことに優先順位をつけてできることを3つくらいやっていくのがいいと思う	・引き続き子どもの発達と個々の状況に合った生活を保障をしていく ・園での子どもの様子を保護者に伝え、子育てを共にしていく協力体制を作っていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	主体的な遊びを、継続して楽しむことができる遊び環境を整えている	子どもの興味、関心に合わせた環境構成を行い、遊んだものはとつき棚でとっておいたり、名札を作ったりして遊びを継続する工夫をすることで、少しずつ遊びが継続するようになってきたが、子ども達で遊びを発展させたりアレンジしたりできるところまではいかない	B	B		・とつき棚の活用の仕方を見直し、遊びの続きを取っておき、次の日に続きをやりたくなるような場所にする ・クラスリーダーが環境の再構成をいつやるのか具体的に呼びかけて行動する
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	ヒヤリハットを全職員で共有し、安全対策をしている。避難訓練、不審者訓練を通して、園児に非常時における動きが身につくよう配慮している	ヒヤリハットを会議で共有し、対策を話し合い事故を防ぐようにしている。避難訓練、不審者訓練を毎月実施し、反省や改善点を職員同士で話し合い、非常時には臨機応変に動くことができるようにしている。	B	B	・見学していて危険だなと感じる事もあった。キックバイクで遊んでいる子と、ドッジボールで遊んでいる子の間隔が狭くてぶつかる場面があった。危険が予測できることは事前に対策した方がよい。グラについているベンチもあり、修理が必要ではないかと思った	・ヒヤリハットは昼打ち合わせで、その日のうちに周知する ・ヒヤリハット事例に対し、対策したその後の状況を確認し、共有する
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	健康に生活する習慣や態度が身につくよう援助している。また、食へ関心をもち、楽しい雰囲気の中食事できる環境になっている	手洗い、うがいの習慣がついてきている。暑い時は帽子をかぶる、汚れたら着替える等年齢が高くなるにつれ自分で考えて判断する力を身に付けられるようサポートしている。また、野菜の生長を観察したり水やりしたり、クッキングしたりすることで食に関心が持てるようにしている。	A	A		・食事のマナーや身辺自立に向け、個々に合わせて丁寧に指導していく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	個別の支援計画に基づき、その園児の好きなこと、得意なことを活かしてインクルーシブな保育をしている	ばんだ会議では支援児の困っていることを出し合い、職員会議でストラテジーシートを活用して支援方法を職員間で共有した。日々の保育では担当の保育者と連携をとり園児の特性に合わせて支援をしている。	B	A	・ICTを活用して、書類の簡素化をしていくのはいい取り組みだと思う	・引き続きその時々で気になる子への支援方法を、ABCログやストラテジーシートを活用して職員みんなで考えていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	各分掌が役割に責任をもち、組織として協力し合いながら運営をすすめている	職員間で役割分担をし、園全体に発信して進捗状況を周知したり、協力を求めたりしている。分掌で集まり話し合っているが、企画書の作成が遅く、内容が十分検討されていないことがある。	B	B	・職員間で自分のクラス以外の子のことをよく知るために、部分的にクラス担任を入れ替えるとか、異年齢が一緒に遊ぶ中で様子を知っていく方法もあると思った	・分掌リーダーが仕事を割り振り、進捗状況をみんなに周知できるように可視化して貼り出す ・今までこうだったと決めつけず、現在の子ども達の表れを理解して、育みたい姿をふまえて行事に取り組んでいく
6 研 修	(1)研修体制の充実	遊び構成や研修テーマを基に園内研修で意見を出し合い、環境及び援助の方法を学び合っている	園内研修ではエピソードから子どもの姿を見取り、そこから援助方法や環境を考えるワークを行っている。期ごとに遊び構想会議を行い、子どもの姿や今後のねらいを職員間で共有し環境に反映させている。研修内容等の情報共有のやり方を工夫し、全職員に行き渡るようにしていきたい。	B	B		・園内研修はパート職員も参加できる回を設ける ・期の構想会議で決まったことを全職員が分かるように、環境図にして掲示する
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	園児の興味・関心や何につまずいているか等遊びを理解し、保育者が願いをもって環境構成をしている	公開保育での学びを活かしたり、子どもの表れを職員間で共有したりすることで環境構成をしているが、担任間で教育、保育の考えを同じにして進めていくことに苦勞している。昼打ち合わせで他クラスに子どもの様子を発信したり、お部屋巡りで環境を見せ合ったりして学び合っている。	A	A		・保育ウェブで日誌を記録し、子ども達の遊びが日々連続していくことを理解する ・お部屋巡りを2ヶ月に1回実施し、公開保育での学びを実践に活かしているか確認し合ったり、互いの保育を認め合い、良いところは自分の保育に取り入れていくようにする
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園だより、クラスだより、掲示板などで保護者にわかりやすく内容を発信し、子育ての喜びを共有し合える関係を築いている	クラスだよりやわくわくボードに写真を取り入れ、子どものつぶやきや成長している姿を具体的に記入することで伝わりやすくなった。また、送迎時に保護者と園や家庭の様子を共有し、関係を築いている。	B	B	・子ども達は一日のほとんどを園で過ごしている。先生達に見守られてできるようになったことがたくさんあり、感謝している	・わくわくボードに子ども達の経験していることや「育ち」を捉えた内容や遊びのその先の展開に向けた保育教諭の期待や願いを書き、保護者と共有する
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣の小学校へ足を運び、園の情報を掲示してもらったり、校庭を散歩したりして学校との繋がりをもつ	小学校の公開授業に参加したり小学校の先生に自園の公開保育に参加してもらったことができた。袖師小の図書館へ足を運んだり、校庭で遊ばせてもらったりしてつながりを持っている。また、地元の中学生や高校生の体験学習を受け入れることで、園児との交流を図っている。	A	A	・地域としては中学生の防災の協力体制を充実させていきたいと考えている	・小学校との交流や近隣園との交流を調整し、関係づくりを進めていく ・小学校へアブローチカリキュラムを渡し、日々の遊びの中で育っている子ども達の姿を伝えていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園の情報を公民館や交流館などに掲示し園のことを知らせたり、地域の行事へ参加している	園見学、園庭開放の受け入れを行ったり、近隣小学校、こども園へ公開保育の案内を知らせたり、近隣施設や未就学の園児の家庭へおしゃべりサロン、園だより、HPを配布している。また、子育てトークや出前保育の参加を計画的に行っている。	B	A	・やりたいことを、どんどん言ってきてほしい	・地域の方との交流(子育てトークへの参加など)継続していく。また、園周辺の散歩は計画的に行っていく ・園内研修の取り組みを掲示することで保護者へ伝える